

大阪錦画新話 第 十 号

兵部省の雇人足某へ同省より内金五円を受けり

帰り其夜寐處の下へ金を置け翌朝立ちて此の金出張せしが

ト思ひ出り 敬馬の家にお入りさげせども更にお此者の娘

七才あるおつぐぬれが今朝五厘をひらひ菓子を買

買つてとておつぐぬれ菓子やあつたあつ

ぐと語らば我も心成り無きとて

又つておつぐぬれを捜し

見つけし云ふは我が我も圓金を受取

たり不意と知らばと賤布をちり見

見れば是君の所有あるが

おつぐぬれは是君の所有あるが

五厘をいふとよ正直あるお感一朱を

是を謝らば若おの円金あるは無き

仕舞ふれども圓くおつぐぬれ

五円の有金ありて金錢の正直大切致

ありせん

日々新聞 二百号出

ありせん



新話

河波文

表

